

# 学力向上のための取組を進めています

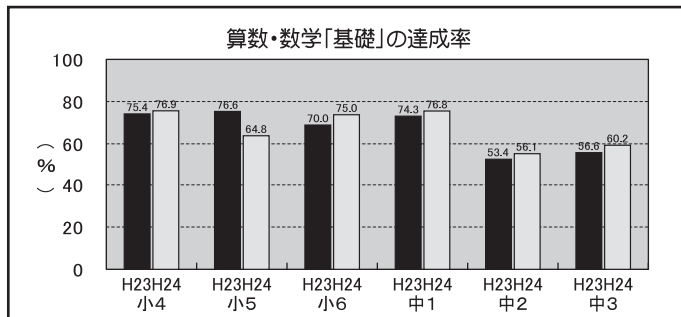
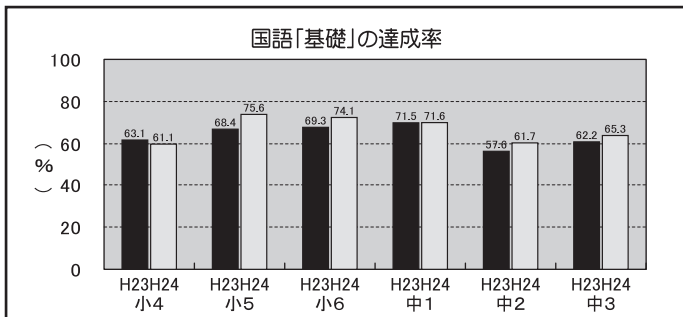
—平成24年度の「確かな学力の定着度調査」の結果を公表しています—

## ●「確かな学力の定着度調査」の結果

区では、小学校4年生以上と、中学生を対象として、「確かな学力の定着度調査」を4月11日（水）に実施しました。学習内容が身に付いているかどうかを把握する「学習到達度調査」とともに、学習に取り組む意欲や、家庭での日常生活習慣などの意識を測る「学習意識調査」から、児童・生徒の学習状況の全体像を把握します。

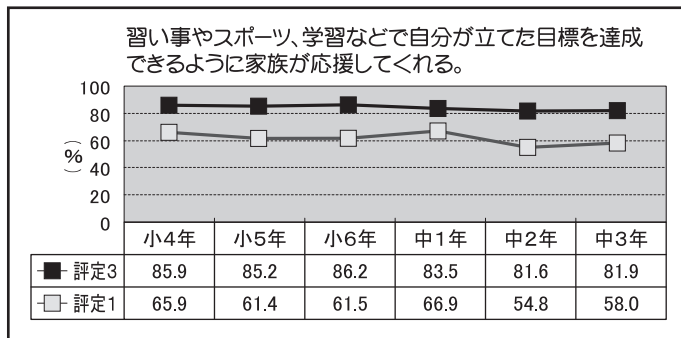
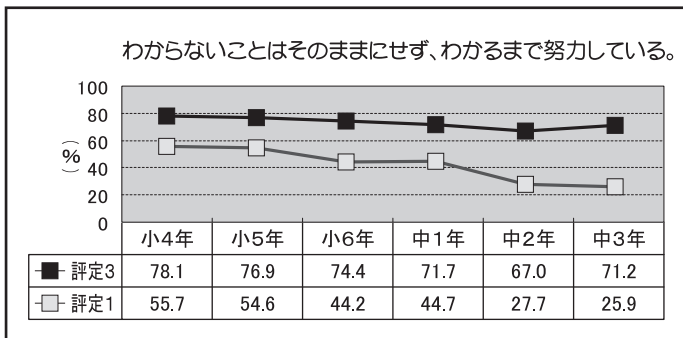
## ●「確かな学力の定着度調査」の結果（一部抜粋）

### 【学習到達度調査】



※ 「達成率」とは、目標値を超えている児童・生徒の割合のことをいいます。（100人中50人が目標値を上回った場合→「達成率」50％）

### 【学習意識調査】（特に、学習到達度との相関関係が高い出題内容）



※ グラフの見方

学習状況の全体像を把握するために、学習到達度調査のデータを成績順に並べて、評定3、評定2、評定1の3分の1ずつに区切ります。そして、各層ごとに、学習意識調査のそれぞれの質問に肯定的な回答をした子どもの割合を求めます。評定3と評定1で、数値に大きな差が出るものは、学習が身に付いている度合いと関連のある学習意識や生活習慣であるといえます。

## ●実施結果から考えられること

### ☆「学習到達度調査」からわかること

- ・国語の基礎については、小学校5、6年生と中学校1年生において、達成率が70％を超えており、概ね満足できる状況です。また、小学校4年生以外のすべての学年で、昨年度と比較して達成率が上昇しています。
- ・算数・数学の基礎については、小学校4、6年生と中学校1年生において、達成率が70％を超えており、概ね満足できる状況です。また、小学校5年生以外のすべての学年で、昨年度と比較して達成率が上昇しています。

### ☆「学習意識調査」と「学習到達度調査」の相関関係からわかること

- ・わからないことをそのままにせず、わかるまで努力する姿勢によって学習習慣が定着し、学力向上に関係していると考えられます。
- ・安定した生活リズムや親子のふれあいが子どもたちの学ぶ力の育成に大きな役割を果たします。学習習慣確立のためには、各家庭において、子どもの生活習慣や学習習慣に関心をもち、適切に働きかけていくことが大切です。

## ●授業改善に向けての取組

葛飾区教育委員会では、区独自の学習支援講師などによる「習熟の程度に応じた少人数指導」を推進しています。また、小・中学校において葛飾教育の日（土曜日授業）や、夏季休業日の縮減により授業時数を確保しています。さらに、「家庭学習のすすめ」を配布して、家庭と連携して学習習慣を確立していきます。

各学校では、すでに児童・生徒及び保護者の皆さんに各自の学習到達度調査及び学習意識調査の結果を配布するとともに、児童・生徒の指導に取り組んでいます。これらの調査結果をもとに「授業改善推進プラン」を修正・改訂し、より良い授業を実施することにより子どもたちの学力の向上に努めていきます。

学習意識調査では、家庭学習の時間が十分に確保されていない状況が読み取れました。予習・復習を習慣化させる等の家庭学習の充実に向けて、ご家庭とともに進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、「授業改善推進プラン」は、各学校のホームページ上で公表しています。